



飯守 康洋

住みやすい町、住みたい町づくりに関して、今の住生活の姿、環境について

飯守 生活基盤施設等の実態は。

答弁 義務教育学校3施設、高校1施設、県産業技術学院1施設。

保育園・こども園13施設、病院3施設、無床診療所7施設、歯科7施設、鍼灸院・整骨院7施設、都市公園6施設、他の公園17施設、市内3つのJ・R駅、下水道、農業集落排水、コミュニティプラント、合併浄化槽を合わせた汚水処理人口普及率は55%、コンビニは9施設です。

飯守 人口の実態について。

答弁 平成27年調査で、夜間人口1万9749人、昼間人口は、市外へ通勤・通学される方を差し引き、市外から通勤・通学される方を加えた人口数で1万8889人となっております。

飯守 情報アターの数値について。

答弁 人口密度で、平成27年国勢調査結果、1平方キロメートル当たり本市は2037人、県全体は3412人です。

県内20市町で18位、また空き家率は平成25年度の住宅・土地統計調査では本市の空き家率が16.2%、県単位では12.8%であり、県内でも高い数値となっております。

今後の住宅基盤整備に関して

飯守 住宅団地の課題と対策は。

答弁 コミュニティプラザ跡地の活用については、地質調査を行い課題があるとすること新築な候補地を選定する必要があり、造成の手法、また事業費、隣接地との調整などで関係課が連携して対応していきます。



田淵 厚

土砂災害の防止対策について

田淵 近年の土砂災害の要因、特別警戒区域及び警戒区域の数と種類、身を守るための心得は。



答弁 要因の大きなものとしては、集中豪雨があります。

次に、土砂災害警戒区域は、538箇所、土石流に関するものが182箇所、急傾斜地の崩壊が328箇所、地すべりが28箇所あ



牛島 和廣

放棄された農地と山林について

牛島 現状と対策について。

答弁 農地の荒廃を防ぐ主な対策としては、中山間地域等直接支払制度と多面的機能支払交付金事業の活用を推進しています。

森林の荒廃を防ぐ対策としては、佐賀県独自の森林環境税事業を活用し、個人所有の間伐や広葉樹の植栽、また、下刈りなどの事業に取り組みんでいます。

また、来年度以降、森林環境譲与税と森林経営管理法に基づく事業に取り組み、荒廃した森林環境の改善に取り組みしていきたいと考えています。



平間 智治

放課後児童クラブについて

平間 対象者及び入所要件と利用料金の現状と今後の対策は。

また、就業していない家庭で2人目を出産して、8週間を過ぎたら上の子どもはクラブを利用できないのはどうしてなのか。

答弁 放課後児童クラブの対象者については、多久市放課後児童健全育成事業実施要綱に、市内に住所を有する留守家庭児童と規定をしています。



鳥獣被害の現状と対策について

牛島 捕獲したイノシシの処理方法について。(一般廃棄物焼却施設清掃センター等)で受け入れができませんか)

答弁 平成30年1月30日に多久小地域有害鳥獣駆除対策協議会から清掃センターへの受け入れの要望書が提出され、清掃センター対策委員会にお諮りをして、清掃センターでの受け入れについての検討が行われていますが、現施設は焼却炉の老朽化が激しく、イノシシのような大きな動物類については、焼却処理をするには時間がかかること、また炉の損傷を進めることになり、一般家庭のごみ処理に支障が出ることも考えられることから、現状としては、受け入れはできないという判断となっております。



育休をとられているところは昼間も家庭にいる状況になりますので、8週間を過ぎても利用はできません。ただ、特別な事情がある場合は個別の対応をしますので、教育委員会に相談していただければと思います。

交通弱者対策について

平間 ふれあいタクシーに替えて、タクシーの初乗り運賃を助成する事業を導入できないか。

答弁 移動手段の確保ということがポイントかと思っています。ライドシェアと言つ取り組みや運賃の一部補助という方法もあります。

なお、質問の趣旨にありますような交通弱者の方や福祉を必要とする方に何らかの手を差し伸べることに大事な観点だと思っております。是非どのようなサポート、支援の仕方がいいのかをしっかりと先進例、あるいは良い例の情報を収集して検討させて頂きたいと思っております。

